

## 立志の誓い胸に大人への第一歩

武家社会の元服にちなみ、14歳になった中学2年生を祝う立志式が、1月31日に神崎中学校と千代田中学校で、2月7日に脊振中学校で行われました。

神崎中学校では1、2年生が出席し、校長先生は幕末の医者で思想家の橋本左内が著書「啓発録」の中で記した去稚心、振気、立志、勉学、拓交の5つの誓いを引用し、「今日をひとつの節目とし、皆さん自身の啓発録を作ってほしい。甘えを捨て、自分自身を鍛えよう」と激励しました。

2年生167人の中から各クラスの代表が、将来の夢や理想の大人についてなど14歳の志を披露。生徒会長の齋藤大祐さんは、「自分のため、誰かのため、社会のために力を尽くせる大人になりたい。夢の実現に向けて精一杯努力します」と誓いを述べました。



## 百手祭り豊作祈願

1月27日、横武地区の乙龍神社で、江戸時代から続く伝統行事、百手祭りが行われました。



「百手」とは、矢を百本射するというような意味があり、神事に続いて行われた的打ち行事では、2疋近くある大きな弓をしならせ、一人5本ずつ矢を放ちました。

的は3種類。一番大きな大的の裏の「鬼」の文字が落ちると、厄が払われ、紙的は家内安全、藁で編んだ一番小さな菱的は豊作祈願と伝えられています。

参加者からは「今年はよく当たった。特に菱的にこんなに当たったのは見た事が無い。今年は豊作。景気も良くなる」といった声が聞かれました。

## 大人顔負けのアート 脊振小の児童が生け花を披露

2月12日、脊振支所の正面玄関で生け花教室が開かれました。

毎月1回、脊振小の児童を対象に開催されているこの教室は今年で7年目。この日は年度の締めくくりということで、児童それぞれが生け花の作品を作り支所の玄関に飾りました。どの作品も個性がありとても魅力的で、廣瀨千鶴子先生は「子どもたちはとても思い切りがいい。どの作品も大人顔負け」と話されました。

参加していた児童たちからは、「少し難しかったけど楽しかった」「家でもぜひ生けてみたい」などと言った声が聞かれ、終始賑やかに生け花に取り組んでいる姿が印象的でした。



## 250年を超える伝統 大島の水かけ祭り



2月16日、千代田町大島地区で、締め込み姿の若者が水をかけ合う一風変わった祭り「大島の水かけまつり」が行われました。

この祭りは江戸時代、村で疫病が流行した際に、通りかかった英彦山からの修験者に鎮めてもらった事へのお礼参りの、清めの儀式として始まったと伝えられています。

今年もかじかむ寒さの中、夕方5時半ごろから、3つの講元の家で、お神酒と湯豆腐で体を温めた若者22人が、二手に分かれて勢いよく水をかけ合いました。周辺では祭りを見守る地元住民とともに、カメラ愛好者の姿も多く見られました。

## みんなで守ろう、文化財防火訓練



「文化財防火デー」に伴い、1月27日、姉川城跡で防火訓練が行われました。

神崎地区消防事務組合消防本部、神崎市消防団第4分団、さらに姉川上分と下分の地元の人々が参加した訓練は、午前9時半、姉川城跡の天満宮から出火したと想定。

初期消火訓練は、近くに消火栓が無いので、小雪が舞う中、参加者が白い息を弾ませながらバケツリレーで行われました。

その後区長から消防署への通報により、細い路地に消防車1台とポンプ積載車6台が出勤して放水、充実した消火活動の訓練となりました。

姉川城跡は、周囲を堀に囲まれた大小の島により構成される中世の城館跡で、国の史跡に指定されています。神崎市にはこの姉川城跡をはじめ、47件の国・県・市に指定された文化財があります。大切に守っていきましょう。

## “全国中学生創造ものづくり教育フェア”でお弁当作りに挑戦

1月26・27日の2日間、東京女子栄養大学で「あなたのためのおべんとう」作りを競う大会が開催され、各都道府県による予選大会で選出された20チームが出場する中、千代田中学校2年生谷川詩織さん、稲富怜垂さん、益田幸実さんの3人が出場しました。

この大会は、対象者の年齢にあう栄養がきちんと取れる献立であること、主菜は必ず魚を使うことなど細かい規定がある中、90分間でお弁当を作り、片付けまで行わなければなりません。



3人で考えた献立は、神崎市の特産品であるそうめんを衣にし、魚のすり身、佐賀県産キャベツなど野菜をみじん切りにしたコロツケ、菱の実グラタン、吉野ヶ里産の赤米のおにぎりなどです。全ての献立に牛乳、クリームチーズ、スキムミルクなどを入れて、カルシウムがたくさん取れるように工夫しました。

入賞することはできませんでしたが、本番では練習以上の力を発揮することができ、持てる力を精一杯だしきり頑張ることができたと話していました。

## 土質改良の新工法をお披露目



のリサイクル中にする廃材を利用した「マッドキラー」と呼ばれる土質改良材を使用するもので、市の独自の事業（土地改良モデル事業）で試験的に施工が行われました。

見学会には県内外から多くの方が参加しており、神埼町蔵戸地区で実施された、新工法を用いたクリーク整備の試験施工に興味深そうに観察していました。

市の担当者は、「マッドキラーは、環境にすごくやさしい。クリークなどの土質を改良した後は、菱の実やレンコンの栽培もできるのでは」と話していました。

2月6日、神崎市と株式会社フジタの共催で、新しい土質改良の見学会が行われました。

新工法は、紙

## 福を呼び込む 姉の七福神

千代田町姉地区に代々伝わる伝統行事「姉の七福神」が、2月3日に行われました。

300年以上も前から続くこの伝統行事は、無病息災や商売繁盛を祈り、七福神に扮した7人が幸領人と呼ばれる案内人を先頭に地区内の家を巡回するというものです。

「七福神の入り」「鬼は外、福はうち」などと口上を述べながら家に上がり、お祝いの謡を披露した後、料理や酒などのもてなしをうけました。

また、千代田中学校の生徒たちも七福神に同行し、地元での伝統行事について、見識を深めていました。



## 神崎市のゆるキャラ「くねんワン」「くねんニャン」活躍中!

### ◇ひげダンスでギネス認定

1月26・27日、長崎県佐世保市のテーマパークで、全国のゆるキャラ164体が集まるイベントが開催されました。



27日には、「くねんワン」「くねんニャン」をはじめ全国の141体のゆるキャラが参加して5分間ひげダンスを踊る、というギネス記録に挑戦するイベントも行われました。ギネス公認の記録認定者の厳しい指摘により1、2回目は不合格。気力も体力も限界に近づいた3回目に見事成功して認定が発表されると、ゆるキャラたちは抱き合って喜びあっていました。

### ◇くねんニャンがCMに登場!

2月から放映されているアサヒ飲料のお茶のCMに、佐賀県のゆるキャラを代表して、くねんニャンが出演しています。



2月14日に神崎市役所を訪れたアサヒ飲料九州支社の納所義博支社長は「商品とともに、くねんニャンや神崎市をアピールさせていただきたい」と話され、田中副市長も「くねんニャンを選んでいただき、ありがたい。たくさんの人に神崎市を知ってもらおう機会になれば」と商品のPR効果に期待しました。

現在は九州版のみのCM出演ですが、今年の7月からは全国版にも登場。くねんニャンが全国的な人気者になる日も近いかもしれません。